

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成21年11月21日

【評価実施概要】

事業所番号	4079100162
法人名	有限会社 北村
事業所名	グループホーム なかま
所在地 (電話番号)	福岡県みやま市高田町岩津785 (電話) 0944-22-6568
評価機関名	社団法人 福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅前中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成21年10月27日

【情報提供票より】(平成21年10月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 3月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	11 人 常勤 8人, 非常勤 3人, 常勤換算 8.62人

(2) 建物概要

建物形態	併設 <u>単独</u>	<u>新築</u> / 改築
建物構造	木造	
	1階建ての 階 ~	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷金	有(円)	<u>無</u>		
保証金の有無 (入居一時金含む)	<u>無</u>	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,000 円		

(4) 利用者の概要(平成21年10月10日現在)

利用者人数	9 名	男性	1	女性	8 名
要介護1	2 名	要介護2	2 名		
要介護3	2 名	要介護4	0 名		
要介護5	3 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 88 歳	最低 72 歳	最高 102 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	ヨコクラ病院、江の浦病院、くさかベクリニック、二宮クリニック
---------	--------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

周囲には田園風景が広がり、四季おりおりの眺めが一望できる自然環境に恵まれたホームである。日当たりの良い広い庭には実のなる木や菜園、季節の花が咲き利用者は土いじりや散策したりと自由な雰囲気がある。収穫した野菜や花は日々のテーブルに並び、利用者の楽しみとなっている。ホームの理念である「地域社会と交流し、心より笑える笑顔の生活」を大切に、利用者が家庭的な雰囲気のなかで暮らせるように職員全員で取り組んでいる。管理者は、職員の接遇や知識の向上にも力を入れている。食事の前には利用者と職員が歌集を手し、広い分野の歌を楽しく歌う表情はいきいきとしている。地域の行事や祭事などへの参加と地域住民やボランティアの訪問等を通して、地域とのふれあいを大切にした取り組みが行われている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善項目の「権利擁護に関する制度の理解と活用」に関してその後、関係資料を取り寄せ、家族に資料配布と説明を行い、全職員へは研修を行い評価の大切さを再確認して日々の活動に活かせるように取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者は全職員に自己評価の内容や意義を伝え、職員全員が日常の介護の見直しの重要性を理解しているが、評価項目の内容については全ての職員が理解するには至っていない。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議には、利用者・家族代表・行政・民生委員等の参加で2ヶ月に1回実施し、日々の様子や活動内容を報告している。問題点や外部評価について参加者から貴重な意見や助言を受けている。会議で討議された内容は全職員でサービスの質の向上に活かせるように取り組んでいる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
	運営推進会議や面会時などで家族の意見や苦情などを把握している。苦情箱は活用されていないが、家族の訪問時には職員が積極的に話しかけるようにしている。意見、不満、要望が出された時は職員間で話し合っ運営に活かせるように取り組んでいる。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の祭事や「いきいきサロン」には利用者と職員が参加し、地域住民と共に楽しい時間を過ごし地域との連携を大切にしている。ホーム内では地元のボランティアによるセラピーや絵手紙教室を開いて地域との連携を深めている。

2. 調査結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者が地域のなかで、職員と共に笑顔あふれる毎日の生活を重視し「地域社会と交流し、自分らしさを継続し、心より笑える笑顔の生活」と事業所独自の理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の朝礼で管理者、職員は理念を斉唱し、理念の大切さや実践に向けての確認を行っている。玄関に入ると理念が目につく位置に掲示されている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の祭事に利用者、職員が参加している。ホーム内では地元のボランティアによるセラピーや絵手紙教室が開かれていている。また、地域の「いきいきサロン」に参加して地域の人たちとの触れ合いを深めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は、全職員に評価の内容・意義を伝えており全職員が理解しているが、評価項目の内容については全ての職員が理解するには至っていない。	○	自己評価の目的や意義、日々の支援活動の見直しの重要性の理解だけでなく、評価項目の内容について勉強会などで理解を深め、全職員で評価に取り組むことが望まれる。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、利用者、家族代表、行政、民生委員、管理者等が参加して実施している。会議ではホームの活動報告を行い、気づきや質問、意見、要望などを聞き、ホームの活動に活かせるように努めている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者とは、運営推進会議以外にも相談や指導、情報提供等を通じて関係作りに努め、市町村と共に質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護に関するパンフレットを取り寄せて、全職員への研修を実施し、入居時や家族の訪問時にパンフレットを配布し説明している。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月請求書と一緒に利用者の日々の様子や活動を写真にした「なかま便り」を郵送している。家族の面会時には利用者の健康状態、日々の生活状況などを報告している。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会時などに家族の思いや意見を把握している。玄関に置いている苦情箱は活用されていないが、家族の訪問時には話しやすい雰囲気作り職員は心がけている。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職による利用者のダメージを最小限に抑えるように取り組んでいる。以前、職員が利用者へ離職の挨拶をしたときに混乱が生じたことがあり、その後は利用者には知らせないようにしているが、家族の訪問時に状況の説明を行っている。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	性別や年齢、資格や経験だけにとらわれずに面接し、採用を行っている。採用基準で重視していることは、利用者の尊厳を守る基本として「ことば」を大切にしている。採用後は、職員が活力ある日々の業務によって自己実現が保証されるように配慮している。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	管理者は、日々の業務の中で人権を損なうような言動が見られるときはその場で職員に指導助言をしており、人権を尊重する業務の実践に向けての教育に取り組んでいる。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内、外の研修には、職員の勤務体制を整えて参加できるようにしている。スキルアップ研修や資格取得のための研修には積極的に取り組めるように支援体制ができている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム協議会に加入している。研修会の世話は担当制になっており、お互いに活躍する中で交流を深めている。ネットワーク作りや研修会活動をサービスの質の向上に活かしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に在宅への訪問を数回行って聞き取りしながら馴染みの関係を深め、お互い確認した上で入居してもらっている。入居当日は家族に宿泊してもらって安心してサービスが利用できるように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の人生経験で培われた特技や能力を日常生活に取り入れている。野菜作りについての教えを受けたり、台所では職員と一緒に食事作りをして、職員と共に学び合い、楽しみを共にし、支え合う関係を築いている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ビールが飲みたい、三味線を習いたい、家の草取りをしたい、お寺参りがしたい等々の希望があり、すべて希望に応える支援が行なわれている。畑での野菜作りでは利用者によって作り方がそれぞれ異なっていたので、同じ野菜を3箇所育てている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族の希望や意向をよく聞き、職員も意見を出して話し合い、介護計画を作成している。作成した介護計画は本人、家族に説明し、承諾を得ている。全職員も入居者一人ひとりの介護計画を把握している。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的に3ヶ月ごとに見直しを行っている。それ以前に体調の変化等があった場合は本人、家族、医療関係者、職員とよく話し合っ介護計画の見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	腰痛・肩痛のある利用者にはマッサージ師が、カットを希望される入居者には美容師が来訪している。また、利用者の希望によりスーパーマーケット、ドラッグストア、衣料品店等家族の了解を得て買い物支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医が遠方の場合には概ね入居6ヶ月はかかりつけ医への受診支援を行っている。その後は本人及び家族と相談の上、ホーム近くの医療機関に変更している。ホームが受診支援を行った場合は直ちに家族に状況を報告している。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	心臓病や痰の吸引が必要な利用者がある。終末期をホームで迎えたいとの希望があるので、看護師である管理者を中心に終末期に向けての話し合いを家族、医療関係者、職員と共に始める予定である。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者や訪問者に対しての接遇の勉強会を行っている。特に言葉使いや態度については、気がついたら利用者にわからないようにその都度注意している。記録の書き方にも留意し、個人の記録等は事務室で管理されている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	パーマや毛染めには行きつけの美容院へ、また、毎日自宅へ帰りポストの中身を確認する利用者にも職員が同行している。畑へも自由に行き、自分のペースで仕事をしている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食前にはジャガイモの皮むき、ゴマすり、配膳を。食後は自分専用の腕カバーを付け食器を洗う人、食器を拭く人、テーブルを拭く人、エプロンを洗って干す人等、一人ひとりが得意としている事が積極的に出来るように支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴の準備をし、利用者は半数ずつ隔日に入浴している。毎日入浴を希望する人には応じている。入浴を嫌がる利用者には、職員はあの手この手で入浴を促している。入浴後は“気持ち良かった”と喜ばれるがどうしても入浴されない場合は足浴やシャワー浴を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	居室の掃除(可能な人)は各自がモップで行っている。広い庭では季節の野菜や花を、農家をしていた方達がそれぞれのやり方で、それぞれのペースで育てている。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は近くの公園に散歩に出かけたり、いちごの季節になるとイチゴ狩りに出かけ楽しんでいる。散歩は歩行の速さにより3つのグループに分け、時間差で行っている。地域で行われる“ふれあいサロン”や公民館行事への参加、買い物等も楽しんでいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホーム玄関は昼間は施錠していない。利用者が一人で外に出られた場合は職員がうしろからついて行き、周囲をぐるりと回って一緒に帰ってくる。夜間は安全のため夕方5時30分から朝の8時30分まで施錠している。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回火災訓練を行っている。今年は地域の消防団4名の協力を得て避難訓練を行ったばかりである。避難方法、避難経路等消防団の指導を得てしっかり確認できている。また、地震時の訓練も行っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は栄養バランスを考え作っている。食事と水分の摂取量はチェック表で管理している。また、細かくきざんだり飲み物にトロミをつけるなど、利用者の状況に応じて対応している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入口にはさりげなくホーム表札が掲げられている。庭に面したベランダにつながる明るいリビングにはゆったりしたソファが置かれ、利用者は思い思いにくつろいでいる。食堂とリビングが見渡せる台所では、職員が調理をしながら利用者を笑顔でみている。その状況は大きな家族そのままである。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
33	85	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ベッドやタンス等すべて使い慣れたものを持ち込んだ居室には、家族の写真やぬり絵が飾られ、安心して過ごせる空間を作り出している。</p>		